

【配付資料】

平成26年度新規事業について
(予算要求段階)

1

「ひろしまイノベーションハブ」形成促進事業【新規】

事業の目的

産学(産産等を含む)が、組織の枠組みを超えてイノベーションを実現するため、次のような取組を継続的に実施し、イノベーションに興味ある人がこの場に集約され、イノベーションの土壌として重要な「幅広いネットワーク」を形成する。

意識啓発トークセミナー



起業成功者や起業家を支援する者等を招聘して、社会人から学生までを幅広く対象としたトークセミナーを実施。「イノベーションマインド(新しい何かを始めようという意識)」を喚起して、同じ志を抱く人々との交流の場としていく。

アイデア創出ワークショップ



参加者5~6人の即席チームで、30分~1時間程度、設定されたテーマについてグループディスカッションを実施。他の参加者との対話の中で多角的な視点を獲得していく。相手を変えて数回の討議を行うことで、参加者は短時間で効率よくアイデアのきっかけを取得できる。

マッチング・交流イベント



ビジネスプランを持っている方などを対象に、そのプランを実現するうえで必要となる人材同士の出会いの場を創出。また、大企業などが現在求めている技術ニーズを開示し、それに応じることのできる技術シーズとのマッチングなどを実施する。

ビジネス創造模擬体験



主として技術者や商品企画部のスタッフ等を中心に、5~6人の即席チームで、ビジネスプランや試作品を作り上げる。着想をまずは形にさせてみることで“創業”のハードルを下げ、先輩起業家等がチームを導くことで実現性を上げていく。

平成26年度

- 上記のようなコンテンツを組み合わせることで、イノベーションの意識を持った人材の蓄積を進める。
- 本事業の浸透を見ながら、最終的には常設の場として、多様な人材が集い、幅広いネットワークの結節点(ハブ)となることを目指す。

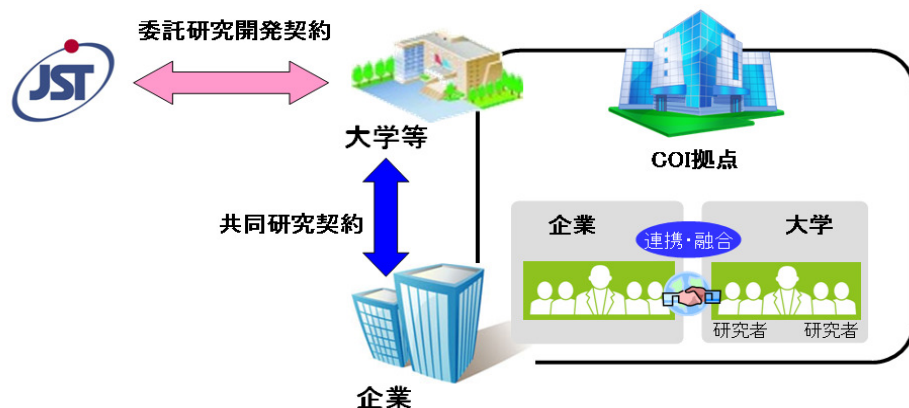
1

ひろしま産学共同研究拠点管理事業【新規】

事業の目的

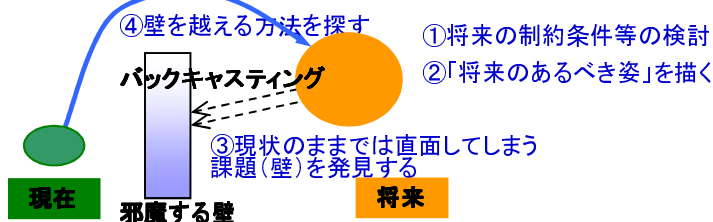
産学連携によるイノベーションの創出を図るため、産学等がアンダーワンルーフで研究開発を進める「場」として、「ひろしま産学共同研究拠点」を設置・運営する。

- 広島大学を中心とする研究大学や民間企業等11者が参画して実施する共同研究プログラム「精神的価値が成長する感性イノベーション拠点」が、全国12のCOI拠点のうちの一つに採択された。
(COI拠点では、バックカスティング手法による研究を進める>)



〈参考〉バックカスティング

イノベーション創出の構想力を高める方法の一つで、「将来あるべき姿」を実現するため、実施すべきことを決めていくという考え方。



平成26年度

- 「広島県産業科学技術研究所」の管理・運営を見直し、「ひろしま産学共同研究拠点」として設置・運営する。

- 「精神的価値が成長する感性イノベーション拠点」のCOI拠点施設としての利用を見込む。



名施	ひろしま産学共同研究拠点
位置	東広島市鏡山3丁目
主要な施設	(施設): 研究室12室, 実験室12室, 事務室1室, 会議室, 研究交流室, 研究交流サロン等 (設備): 透過型電子顕微鏡 1台, 光電子分光装置 1台

2

「ひろしまイノベーションリーダー養成塾」調査事業【新規】

事業の目的

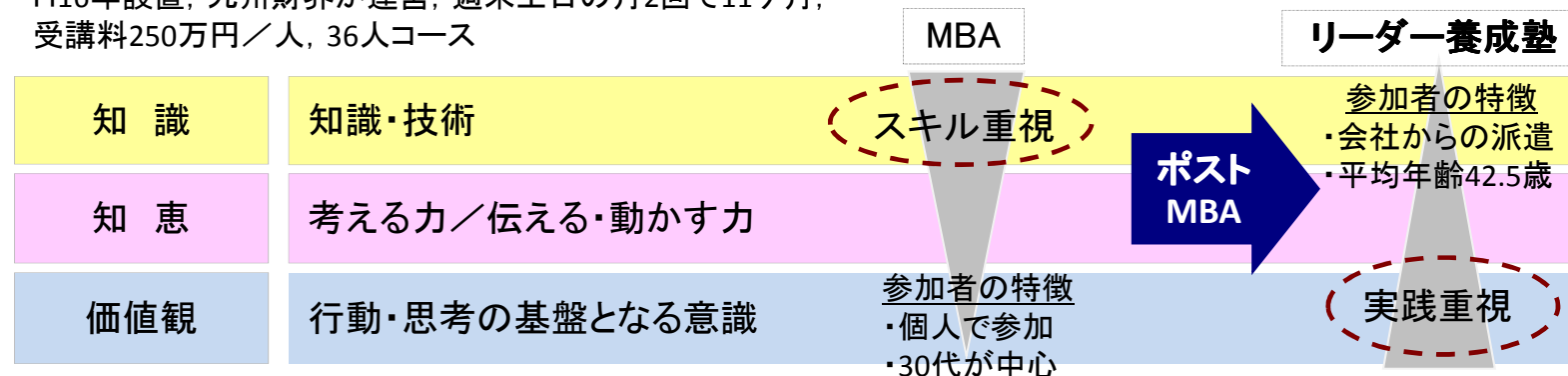
イノベーションを担う人材の育成，経営層へのイノベーションマインドの定着を目的として，次世代リーダーの育成を行う。MBAで習得するような経営スキルに加えて，新領域を切り拓くリーダーに必要な価値観を学び取る講座を実施する。

あわせて，ともに学ぶ環境の中から，イノベーションマインドを持つ者同士の「密接なネットワーク」を構築する場とする。

◆九州の事例(九州・アジア経営塾)

H16年設置，九州財界が運営，週末土日の月2回で11ヶ月，
受講料250万円／人，36人コース

※産学官が協力して設立



平成26年度

○県内企業や大学からなるワーキンググループにより，規模や運営主体，カリキュラム等について検討を行うとともに，先行事例を調査する。

○地域で持続可能な規模・形態を見極め，実現に向けた取組を進める。

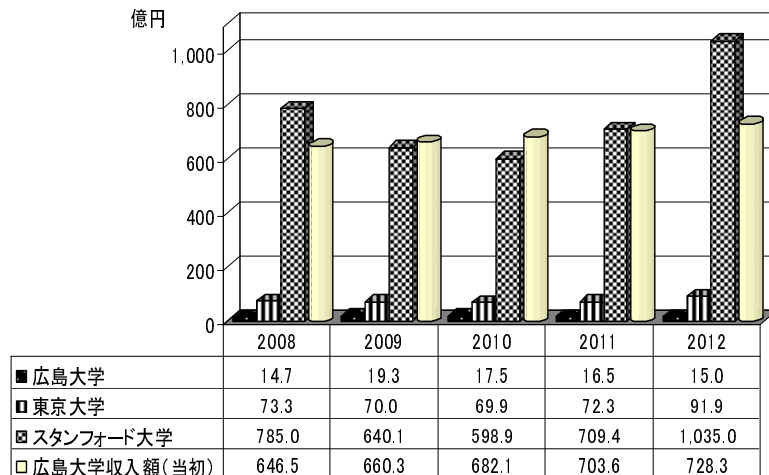
3

産学連携調査検討事業【新規】

事業の目的

産学連携が単発の共同研究(短期的な関係)で終わるのではなく、長期的な方向性を産学で揃えた上で、短期的には成果が出にくい分野であっても、資金と成果等が循環する環境を構築する。

寄附金額の比較



- ・広島大学の全収入(左図グレー)より、スタンフォード大学の寄付金(市松模様)の方が多いのが現状。
- ・産業界と大学の意識を相互に向かせるため、
 - ①国内外の先進事例を広島で紹介し、産学双方の意識啓発を実施(国際シンポジウム開催)
 - ②長期的に産業界と大学で資金と成果等が循環する仕組みを構築

平成26年度

- 国内外の先進事例を広島で紹介し、産学双方の意識啓発を行うとともに、産学で資金と成果等が循環する仕組みについて調査を実施する。
- あわせて産業界や大学関係者からなるワーキンググループにより、産学双方のコミットメントについて議論を行い、合意できたものから実現に移していく。